

25件導入、TSが最多

東北整備局 震災影響し5件減

東北地方整備局は、同局発注工事における2011年度の情報化施工技術活用実績をまとめた。それによると、昨年度は25件の工事にトータルステーション（TS）出来形管理や締め固め管理などを導入した。東日本大震災による被害が大きい宮城と岩手、福島3県での活用が少なかったため、前年度に比べ5件減少した。同整備局では13年度からTS出来形管理などが一般化されることを踏まえ、今年度の対象工事を増やしていく方針だ。

11年度に導入した情報化施工技術は、TS出来形管理が10件で最も多く、以下、締め固め管理7件、マシンコントロール（MC）グレーダ5件、MCアスファルトフィニッシャー2件、MCブルドーザ1件だった。

県別では、山形県の12件が最多で、日本海沿岸自動車道

路関連の工事などで活用された。次いで青森県が8件、秋田は2件だった。被災3県の状況は岩手が2件、福島は1件で、宮城は適用がなかった。また、活用のタイプは入札時に同技術の導入を提案した企業は落札して実際に現場で活用したり、契約後に落札者が提案したりする「施工者希望型」が16件で全体の6割以上を占めた。

一方、発注者が活用を指定して現場で採用する「発注者指定型」は9件だった。

建設通信新聞

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中勢 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| ⑬建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工業 | | 事 |

平成24年6月27日(朝)・夕 P 6